

# 「やさしい日本語」使用の可能性と課題点

## —幼稚園の事例研究を通して

西尾広美

### ●要旨

「やさしい日本語」(佐藤1996)は、当初被災のために考案されたものであったが、今日では日常生活へと用途を拡大させている。そこで本稿では、これまで注目されることのなかった幼稚園の非母語話者の保護者を対象に「やさしい日本語」を使用し、その有効性を調査した。そこから、「やさしい日本語」使用の可能性と課題点を探ることを試みた。その結果、1)「複合動詞」の例から、語彙や文構造を易しく書き換えるだけでは有効性のある「やさしい日本語」にするには不十分な場合があること、2)「動作性のある表現」は理解されづらいこと、3)「原文」そのものの複雑性が「やさしい日本語」化する際の妨げになっていることが課題として明らかとなった。

### ●キーワード

やさしい日本語、幼稚園、保護者、使用、有効性

### ●ABSTRACT

“Easy Japanese” (Sato 1996) was first designed for foreign residents in response to a natural disaster.

“Easy Japanese” has since been expanded for use in normal life circumstances. This text investigates the effectiveness of using “Easy Japanese” for the parents of non-native speakers of Japanese in kindergarten, a use that has seldom been paid attention to by previous studies. It tries to search for the possibilities and problems of “Easy Japanese” use for these parents.

Here, three points are discussed: firstly, to achieve an effective result, it might be insufficient only to substitute the vocabulary and the sentence structure from the example of a “Compound verb” into “Easy Japanese”.

Secondly, “Expression with operation” might not always be easily understood.

Thirdly, the complexity of the original text can make it difficult for the text to be put into “Easy Japanese”.

### ●KEY WORDS

Easy Japanese, kindergarten, parents, use, effectiveness

Possibilities and Problems of  
Using “Easy Japanese”  
Through a case study in kindergarten  
HIROMI NISHIO

## 1 はじめに

外国人のための言語支援の取り組みとしては、阪神大震災以降に提案された「やさしい日本語」(佐藤1996)の取り組みが、広く知られているところである。「やさしい日本語」は、当初減災のために考案されたものであったが、今日では日常生活へと用途を拡大させている。「やさしい日本語」が普及することは望ましいことであるが、「やさしい日本語」のもつ機能が対象者に有効に発揮されて初めて「やさしい日本語」はその意味をもつものになると考える。そこで本研究では、江戸川区内の公立幼稚園における非日本語母語話者(以下、非母語話者)の保護者に向けた「やさしい日本語」の実験的使用を通して、「やさしい日本語」の有効性を調査し、その分析から「やさしい日本語」使用の可能性と課題点を探るものとする。

今回、幼稚園現場に焦点をあてるのは、多国籍の子供を抱える幼稚園現場において、教師が非母語話者の保護者に対する情報伝達について困難を抱えていると同時に、非母語話者の保護者も日本語学習が不十分なために多くの困難を抱えているという実状<sup>[註1]</sup>があるからである。幼い園児にとって親の庇護は不可欠なものであり、親へ正しく情報伝達がなされることは極めて重要であると考えられる。しかしながら、筆者が幼稚園に焦点を当てるのは、ただそれだけの理由からではない。

幼稚園は単に幼児教育の場としての役割を担っているだけでなく、より低年齢児を預かる保育園からの継承と、小学校への橋渡しになる重要な役割も担っている。だとすれば、「やさしい日本語」の幼稚園における事例研究を行うことは、保育園や小学校などにおける応用の可能性も広がると考えられる。さらに幼児教育の現場では、日常生活の中でたくさんの行事が営まれており、異文化接触の面で非母語話者の保護者が困難を抱えやすく、そうした困難は他の生活場面との共通性をもつ、とも推測できる。

こうした点から、幼稚園という現場でコミュニケーション手法としての「やさしい日本語」がどのように有効なのか、あるいはどのような点に課題が残るのかを検証することは、単に幼稚園現場の問題に留まらず、日常生活における

「やさしい日本語」使用の可能性と課題点に繋がるものだと考える。

## 2 先行研究

本稿は、幼稚園における「やさしい日本語」使用の有効性を検証し、その可能性と課題点を探ることを目的としている。したがって、本節では「やさしい日本語」がどのような経緯で誕生し、どのようなものであるかを踏まえておく。その上で、「やさしい日本語」の有効性がどのような形で検証されたのか、幼稚園現場を対象にしたものがあるのかについても検証していく。

### 2.1 「やさしい日本語」の経緯と特徴

阪神大震災の時に多くの非母語話者が言語的不自由から、二重の意味で災害弱者になったこと(佐藤1996)を教訓として、減災を目的に日本語に不慣れた外国人のために災害情報を分かりやすく伝えようという考えが提案された。それが「やさしい日本語(Easy Japanese)」(佐藤1996)の考え方である。日本語非母語話者にとって多言語で伝えることが最も望ましいことではあるが、全ての言語に対応できるような情報提供には限界がある(佐藤2000)。また、英語のみに依存すると母語が英語でない外国人にはうまく情報が伝わらず、母語以外では、英語よりもむしろ日本語で情報を得たい人が多かった(ロング1997)からである。この具体的枠組みは、1999年に『災害時に使う外国人のための日本語案文—ラジオや掲示物などに使うやさしい日本語表現』(以下、案文マニュアル)として発表された。

「やさしい日本語」は、旧日本語能力試験3、4級の語彙を基準(弘前大学人文学部社会言語学教室2010)とし、文字については小学2、3年生程度の読んだり書いたりするのが難しい漢字と、ひらがなおよびカタカナによる表現を使用範囲としている(佐藤2004)。松田他(2000)によれば、「案文マニュアル」で情報を得る対象者は、簡単な日常会話ができ、ひらがなやカタカナが読める程度の外国人で、使用者はマスコミ、自治体、ボランティア団体などに所属する日本人、案文内容は、地震発生直後から72時間以内に伝えるべき内容としている。

この「案文マニュアル」には、主に緊急時に使われる放送用語やお知らせの例が「やさしい日本語」で示されており、災害が起きた時のラジオや有線放送、テレビの字幕スーパー、掲示物などに使うことを目的としている。また、ニュースという音声情報も取り扱っており、ポーズ、スピード、繰り返しといった読み方に関する配慮も挙げられている。松田他（2000）が日本語能力初級後半から中級前半程度の外国人被験者へ音声情報の理解について聴解実験をしたところ、通常のニュース文の理解率は30%であったのに対し、「やさしい日本語」を用いたニュースでは90%以上になるなど、理解率が著しく高まるという有効性が確認された。その後、「やさしい日本語」はその理念を継承しながらも、減災のためだけでなく、日常生活へと用途を拡大させていった。その1つに、日本語をやさしくする公文書の書き換えと地域日本語教室における外国人と日本人双方に対する「やさしい日本語」<sup>[註2]</sup>の普及を目的とした「ほんやくこんにゃくプロジェクト」がある（庵・岩田・筒井・森・松田2011）。

先行研究を見る限り、「やさしい日本語」表現を用いた有効性の検証については、松田他（2000）による音声言語による検証が主だったものであり、文字言語については管見のかぎりあまり見られない。また、「やさしい日本語」使用の応用的な試みとして幼稚園現場を取り扱ったものはない。したがって、この2点において本研究の意義があると考えられる。

## 2.2 「やさしい日本語」の作成ルール

「やさしい日本語」作成のためのガイドライン（弘前大学人文学部社会言語学教室 2010）によると、「やさしい日本語」作成ルールの概略は以下の通りである。

表1 「やさしい日本語」の作成ルール（弘前大学人文学部社会言語学教室 2010）

1	難しいことばを避け、簡単な語彙を使う。
2	1文を短くして、分かち書きにし、文の構造を簡単にする。
3	災害によく使われる言葉、知っておいた方がよいと思われる言葉はそのまま使う。
4	外来語を使用するときは気を付ける。
5	ローマ字は使わない。
6	擬態語や擬音語の使用を避ける。

7	使用する漢字や、漢字の使用量に注意する。漢字にはルビ（ふりがな）をふる。
8	時間や年月日の表記はわかりやすくする。
9	動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にする。
10	あいまいな表現は避ける。
11	二重否定の表現は避ける。
12	文末表現はなるべく統一する。

## 3 調査

### 3.1 調査目的

- ①幼稚園の非母語話者の保護者に対し、幼稚園の配布プリントの「原文」と、その「やさしい日本語版」の理解度について調査すること。
- ②得られた調査結果から、「やさしい日本語版」の有効性を分析し、「やさしい日本語」使用の可能性と課題点を探ること。

### 3.2 調査資料

2011～12年の江戸川区公立幼稚園Aの配布資料から、論文の資料として使う「原文」10点を抜粋した。それに基づき、筆者が「やさしい日本語版」の資料10点を作成した。実際の調査では作成資料を使用し複数の調査を行ったが、本稿では10点のうちの1点「安全指導について」の幼稚園の「原文」と作成した「やさしい日本語版」を調査資料として抽出し、論述する。

### 3.3 調査方法

調査方法：半構造化インタビュー

調査手順：

今回の調査では、同じ被験者に対して最初に「原文」の調査を行い、その後「やさしい日本語版」について調査するという方法をとった。本来は同レベルの被験者を同じ人数だけ集めて、「原文」と「やさしい日本語版」それぞれを比較

するほうが望ましい。しかし現実的に、1つの園内で国籍の違う同レベルの非母語話者の保護者を一定人数集めることは難しかったこと、「原文」の文書はすでに幼稚園のプリントとして被験者全員が公平に目を通していることを理由に、やむを得ず以下のような調査方法をとる形となった。

- 1) 最初に文書の「原文」を音読してもらい、読めるかどうかを確認した。
- 2) 「原文」が音読できた場合でも、内容が理解できていない可能性があるため、内容が正しく把握されているかを確認した。「原文」は幼稚園ですで使用された文書であることから、実際に文書を読んでどのような行動をとったかということも尋ねた。その際、語彙、文書の内容、意図の理解が適切な行動に結びついたかを確認し、「原文」が正しく理解されたかどうかの判断材料とした。また、「原文」の抽象的な表現が具体的にはどのようなことを示しているのかを尋ね、確認材料とした。
- 3) 「原文」が音読できなかった場合、非漢字圏の被験者については「原文」の内容が理解できていないと判断した。ただし、漢字圏の被験者に対しては音読できなくても意味だけ取れる可能性を考慮し、上記2)と同様に、「原文」がどんなことを意味しているのか、語彙や文章、内容について質問し、口頭で回答を得るだけでなく、具体的に動作してもらい、理解したかどうかの判断材料とした。また、「原文」の抽象的な表現に関しては、具体的にどのようなことを示しているのかを尋ね、適切な解釈がされているか確認した。
- 4) 「原文」の検証後、全員に「やさしい日本語版」を音読してもらい、「理解の検証を行った。これも、被験者から回答を得る際、質問の内容によっては口頭で回答を得るだけでなく、動作によって回答を得る方法をとった。文の内容における質問に対し、適切に回答できれば理解したとみなし、そうでない時や返答に窮した時は、理解が難しいと判断した。
- 5) 調査意図は、A: 文書の表面的理解 (語彙レベル)、B: 文書の全体的理解 (文章の大きな理解)、C: 文書の内容的理解 (意図の理解) をみるものとした。調査後、得られた回答を質的に分析し、そこから幼稚園における「やさしい日本語」使用の有効性と課題点を探ることとした。

### 3.4 調査対象・調査場所・調査時期・調査協力

調査対象：公立幼稚園に通っている非母語話者の母親10名

調査場所：東京都江戸川区の公立幼稚園A

調査時期：2012年9月

調査協力：東京都江戸川区の公立幼稚園A園長・教師

日本語母語話者1名 (日本語教師)

### 3.5 幼稚園の文書の「やさしい日本語版」作成における参考資料

「やさしい日本語版」の作成における基準として、以下を参考とした。

- (1) 「やさしい日本語」の作成ルール (弘前大学人文学部社会言語学教室 2010)  
……本稿：表1
- (2) 辞書&レベル判定ツール「チュウ太の工具箱」  
<http://language.tiu.ac.jp/tools.html>
- (3) やさしい日本語支援システム「やんしす」  
<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/>

## 4 調査結果

### 4.1 調査対象者の内訳

対象者：東京都江戸川区公立幼稚園A、非母語話者の母親 10名  
母語者別内訳：中国語母語話者 3名／韓国語母語話者 2名  
タガログ語母語話者 2名／モンゴル語母語話者 1名  
ポルトガル語母語話者 1名／スペイン語母語話者 1名

### 4.2 被験者の日本語習得状況

以下は被験者10名の国籍・母語・在日歴・日本語学習歴を示したものである。

表2 被験者の国籍/母語/在日歴/日本語学習歴 (2012年9月)

\*在日歴は“約”

被験者	国籍	母語	在日歴	日本語学習歴
A	中国	中国語	2年	日本語ボランティア教室2年弱
B	フィリピン	タガログ語	6年	自然習得
C	韓国	韓国語	3年半	日本語ボランティア教室2か月半
D	韓国	韓国語	1年	日本語ボランティア教室11か月
E	フィリピン	タガログ語	7年	自然習得
F	中国	中国語	2年	自然習得
G	ブラジル	ポルトガル語	15年	母国で小6から漢字学習を含む日本語学習
H	メキシコ	スペイン語	7年	日本語ボランティア教室1年
I	モンゴル	モンゴル語	5年	モンゴルの大学で旧N1取得
J	中国	中国語	2年	中国で2年ネット学習、夫(日本語学習歴10年)からの教授

調査資料1: 幼稚園の「原文」(2012年6月「園便り」一部抜粋)

【安全指導について】

雨の日の傘のさし方、傘の扱い方を身につけるようにしましょう。  
 雨の日は、親子で手をつないで歩けないことがあります。保護者は子どもの姿がよく見える位置を歩きましょう。(横または後ろから)  
 また、前方がよく見えるような傘のさし方や人に迷惑をかけない傘の扱い方に気づかせましょう。自転車の荷台で傘をさしたり、傘を振り回したりするのは大変危険です。

### 4.3 「原文」の音読と内容理解についての調査結果

今回の調査では、漢字の読みについて幼稚園の「原文」の文書を確認の対象とした。ひらがな、カタカナ、漢字についての音読結果は以下の通りである。

- ひらがなの読み : 10名中10名 音読できた。
- カタカナの読み : 10名中10名 音読できた。
- 漢字の読み : 10名中 3名 音読できた。(=G・I・J)

音読結果では10名中7名は「原文」の漢字を読むことができなかった<sup>[注3]</sup>が、3名は(ほぼ)読むことができた。ただし、読めた3名のうち「原文」を正確に理解したのは2名だった。1名(j)は「原文」の中の語彙や細かい内容について理解できていなかった。以下は、使用した「原文」である。

### 4.4 「やさしい日本語版」の音読と内容理解についての調査結果

調査に使用した「やさしい日本語版」は以下の通りである。

調査資料2: 「やさしい日本語版」

あめ ひ ある かた つか かた ちゅうい  
 【雨の日の歩き方・かさの使い方に 注意してください】

\* 雨の日は、歩く時に 注意してください。  
 雨の日は、かさを使います。子どもの手をつないで 歩くことができません。  
 子どもは ひとりでは あぶないです。子どもを 注意して 見てください。  
 お父さん、お母さんは、子どものよこや うしろを 歩いてください。  
 子どもが、よく見えます。

\* かさを<sup>つか</sup>使う時は<sup>とき</sup>注意<sup>ちゅうい</sup>してください。人の<sup>ひと</sup>じゃまになって、あぶないです。  
 かさを<sup>ひら</sup>開くときは、人に<sup>ひと</sup>むかって さしてはいけません。  
 自<sup>じ</sup>てん車<sup>しや</sup>のうしろで かさを<sup>ひら</sup>開いてはいけません。  
 かさを ふったり、回<sup>まわ</sup>したりしては いけません。  
 人の<sup>ひと</sup>じゃまになって、あぶないです。  
 かさは、まっすぐさしてください。前<sup>まえ</sup>や右<sup>みぎ</sup>、左<sup>ひだり</sup>が よく見えます。  
 (※雨<sup>あめ</sup>の日<sup>ひ</sup>に気<sup>き</sup>をつけることを、子<sup>こ</sup>どもに話<sup>はな</sup>してください。)

上記の資料をもとに調査したところ、「やさしい日本語版」は10名中10名が音読できた。また、内容については「雨の日は歩く時に注意が必要ですが、それはなぜか」という質問に対し、「傘があるため子供と手をつないで歩けない。1人で道路に飛び出す心配があり、安全のために親は子供の前や後ろを歩いて子供を見ている必要がある」と答え、雨の日の危険性と、安全上必要な歩き方について10名全員が適切に答えることができた。さらに、「傘を使う時は注意が必要ですが、それはなぜか」という質問に対し、10名中10名が「傘がぶつかり怪我をする心配があり、人の邪魔になって危ない。子供にも傘を使って遊んだり、危ないことをしないように伝える」と、傘の扱い方だけでなく、子供に伝えるという文書の意図をも適切に回答した。このことから、少なくとも、Cの内容的理解に関しては全員が理解できたと判断した。

ただし、「やさしい日本語版」にしても、以下の(a)(b)の2点については理解されづらかった。

- (a) 「原文」で示された複合動詞「振り回す」は、構文を平易にし「振ったり、回したりしてはいけません」にしたが、半数が理解できなかった。実際の動作では、傘を閉じたまま軽く振る動作、傘を閉じたままぐるぐると手首を左右に動かして回転させようとする動作が目立った。また「振る」は分かるが「回す」が分からなかったり、あるいはその逆であったり、「振ったり、回したり」することを一連の動作として捉えることができない人が目立った。
- (b) 動作性のある表現「傘を開く時は、人に向かってさしてはいけません」

は「原文」にはなかったものである。「原文」では「人に迷惑をかけない傘の扱い方に気づかせましょう」と記されている。この表現は抽象的で具体的にどんなことが危険なのか理解されづらいと考え、筆者が示したのである。この表現の理解を確認するために傘を使用してその動作をしてもらったところ、4名は正しくできたが、6名はその動作ができず、理解していなかった。実際の動作では傘を閉じた状態で人を突き「刺す」動作をした。「傘をさす」＝「傘を開く」に結びつかない場合が多いことが分かった。

## 5 分析と考察

「原文」を音読できた人は10名中3名、「原文」を正確に理解できたのが2名であったのに対し、7名(体系的学習をしていないと思われる:表2参照)は音読することも理解することもできなかった。「やさしい日本語版」は全員音読でき、細かい語彙や表現を除き、調査意図Cの文書の内容的理解に関しては10名中10名が理解できた。したがって、「やさしい日本語」の使用は有効であったと考えられる。しかしながら以下の点で課題が残った。

### 5.1 複合動詞「振り回す」

「やさしい日本語版」では「振り回す」を初級文型「振ったり、回したり」に変えて調査を行った。その結果、正しく理解した人は10名中5名であった。これは、以下の3つの点を示唆していると考えられる。

- 1) 「複合動詞」は文構造を易しくしても必ずしも理解されないことがある。これは、分割したそれぞれの語彙の難易度が高い場合、語彙をばらしても理解が難しいためだと考えられる(調査結果で、「振る」は理解されたが「回す」は理解されなかった。また、その逆の場合もあった)。
- 2) 「複合動詞」を分解してしまうと個々の動詞の意味が優先され、必ずしも同一主体の連続的な行為として理解されない場合があるだけでなく、ばらした語彙の意味が個々に理解されてしまい、伝えたい意図から外れて

間違った解釈をされてしまう可能性がある。傘を「振る」動作と傘を「回す」動作を別々のものとして行った被験者がいたことから、一連の動作として受け止められていないことが明らかとなった。

- 3) 被験者のイメージする語彙の意味が、必ずしも日本語母語話者のイメージする語彙の意味とは一致せず、場合によっては全く違うものとして理解されてしまう可能性がある（「振る」について傘を閉じたままの状態<sup>10</sup>センチ位上下に軽く動かし、まるで濡れた傘の水滴を切るような動作をした被験者がいた。また「回す」についても、傘を閉じたまま手首を左右にくるくると回し、釘をねじ込むような動作をした被験者がいた。これらは、どちらも傘を「振り回す」動作とはかけ離れている）。

以上のことから「複合動詞」は正しく理解されづらいことが分かったが、「複合動詞」の問題は、佐藤（2004）でも、「誤解をまねきやすい」という指摘がされている<sup>[註4]</sup>。いずれにしても「複合動詞」は、どのようなパターンの時にどのように置き換えが可能なのか研究され、その有効性を確かめていくことが、今後の「やさしい日本語」の課題であろう。

## 5.2 動作性のある表現「傘を開く時は、人に向かってさしてはいけません」

実際の動作をしてもらったところ、10名中4名が正しく行い、6名はその動作ができず、理解していなかった。理解できなかった被験者は、傘を閉じた状態で人（調査では人形を使用した）を突き刺す動作をしたことから、「傘を開く」が「傘をさす」に必ずしも結びつかない、ということが分かった。

一読すれば分かる通り、この文章では難易度の高い語彙は使われてはいない。「傘をさす」は全て旧日本語能力試験4級語彙であり、「向かう」も「開く」も3級語彙である。文章の前件で傘を「開く時は」と断りをいれ、後件で人に向かって「さす」を使用した。その結果、断りの部分はその役割を果たさず、「人に向かって」の部分<sup>11</sup>が注目され、「傘をさす（さす）」は「刺す」と解釈されたと考えられる。日本語の「さす」には「傘をさす」の他に「刺す」や「指す」など、いろいろな意味がある。こうした語彙は漢字で表記した場合、漢字圏の人にとっては識別されやすいと考えられるが、「やさしい日本語」だとひらが

なで表記されることが多いため、意味の識別が難しくなってしまふことが考えられる。動作性のある表現が理解されづらいということと同時に、同音異義語による誤解が複合的に作用した可能性がある。

ところで上記のような問題とは別に、もっと大きな問題があるということに気付かされる。それは「傘を開く時は、人に向かってさしてはいけません」というような平易な文の場合、「やさしい日本語」化支援システムの「やんしす」では変換できないということである。すでに易しい日本語で書かれている文の場合は直す必要がないからである。しかし調査結果からも分かるように、易しい文であるからといって必ずしも非母語話者にとって理解されやすいわけではない。「やんしす」で直す必要がないからといってそのまま使用すると、理解されない場合もあるのである。この問題は「やさしい日本語」化する作成者自身の気づきがなければ回避されづらいという難題を含んでいる。

上記にあげた調査結果の分析と考察から、幼稚園の文書における「やさしい日本語」の使用には以下のような課題点があると考えられる。

## 6 幼稚園現場から見る「やさしい日本語」使用の可能性と課題点

### 6.1 支援型ツール使用の課題点

- 1) 支援型ツールは語彙や文の構造を易しく書き換えるために役立てることはできるが、場合によっては初級の語彙であっても解釈を誤解されたり、構文を易しくしても正しく理解されないなど、有効性のある「やさしい日本語」にするには不十分である（例：傘を「さす」と「刺す」の語彙の意味の誤解→同音異義語の問題）。このことから、幼稚園現場に即した非言語的方略（イラスト使用）<sup>[註5]</sup>も視野に入れた検討をしていくことが必要ではないか、と考える。
- 2) 原文がすでに平易な文の場合、「やさしい日本語」化支援システムの「やんしす」では変換不能であるが、易しい文であるからといって、必ずしも非母語話者にとって理解されやすいとは言えない。この問題は「やさ

しい日本語」化する作成者自身の気づきがなければ回避されづらい（例：「傘を開く時は人に向かってさしてはいけません」→動作性のある表現）。

いずれにしても、文を正しく理解してもらうためには、作成者が複数の語義から文脈に合うものを正しく選ぶ必要がある。

## 6.2 「原文」そのものの内容の複雑さの問題

「原文」を見ると、安全指導についていくつもの内容が混在していることに気付く。文中の1行目には、「雨の日の傘のさし方、傘の扱い方を身につけるようにしましょう」と書いてある。この文章を見ると、傘のさし方や扱い方についての内容だと読み手は想像してしまうかもしれない。だが2行目を読んでもみると、雨の日の歩き方の注意が書かれている。読み手が日本語母語話者であれば、2つの内容が含まれていることに気付くことができるだろう。だが、初級の非母語話者にとってはどうであろうか。1つの文書の中にいくつもの伝達事項が含まれていると、読み手はその内容を正しく受け止めることが難しくなるのではないかと考えられる。そうした場合、「原文」の内容をよく吟味した上で文を整理し、内容によっては小見出しをつけたり、段落に分けたり、時には箇条書きにするなどして、読みやすく「情報を整理」して提示することが必要になってくると考えられる。

文書を書き換える際の配慮・工夫について、宇佐美（2012）は、

- i) 言語形式をより単純なものに簡略化する（簡略化）
- ii) (読み手)に実際に行動を起こしてもらいやすくする（行動促し）
- iii) 情報を正確に伝える（情報伝達）
- iv) 公的性格を持つ文書としての品位を保障する（品位保障）

という4つの配慮が見られることを示している。読み手が文書を読んで情報の混乱を回避し、求められる行動をスムーズに行えるようにするためには、宇佐美（2012）が示したような文書を書き換える際の配慮・工夫についての方略をさらに細分化して示していく必要があると考えられる。特に幼稚園のプリント

には、1つの文書の中に違う情報がいくつも混在している場合も多いため、「やさしい日本語」の作成者は「原文」の内容をよく吟味し、非母語話者にとって分かりやすい内容に書き換えなければいけないと考える。

ところで上記の課題点は、いずれも文書全体の文脈の内容をどう手直しするかという問題である。「やさしい日本語」は、これまでどちらかという用語彙や文法面を形式的に易しくすることに重点を置いてきたが、今後は文脈を含めた文書全体への視点も重要だと考えられる。「リーディングチュウ太」や「やんしす」のような支援型ツールは、語彙や文構造を易しく書き換えるためには便利なものではあるが、宇佐美（2012）が示したような配慮を加えて「やさしい日本語」化することはできないからである。

## 7 まとめと今後の課題

幼稚園で実際に「やさしい日本語版」を使用し、非母語話者への有効性を確認したところ、今回の調査では主に3つの課題点が明らかとなった。

1つは、「複合動詞」の例から、語彙や文構造を易しく書き換えるだけでは有効性のある「やさしい日本語」にするには不十分な場合があること。2つ目には、「動作性のある表現」は理解されづらいこと。3つ目として、「原文」そのものの複雑性が「やさしい日本語」化する際の妨げになっていることである。

こうした課題を克服するためには、文書と同時にイラストなどの非言語的方略を融合させた際の有効性の確認や、宇佐美（2012）で示されたような書き換えの際の配慮・工夫の方法をさらに細分化し、その有効性を確認することが必要であると考えられる。それらが幼稚園のような生活の現場で検証されることによって、非母語話者に寄り添った有効性のある「やさしい日本語」に繋がるものと考えられるからである。

本稿は、実際に幼稚園で調査した資料の中の1点を分析・考察したものに過ぎない。今後は他の資料についても分析・考察し、幼稚園における有効性のある「やさしい日本語」とはどのようなものか、また上記の課題を踏まえながら、日常生活での「やさしい日本語」の可能性を探ってみたいと考える。

〈首都大学東京大学院生〉

## 注

- [注1] …… 筆者は2012年5月に江戸川区公立幼稚園Aにおいて、「教師と非母語話者の保護者のコミュニケーションの現状を探る調査」を行った。その結果、情報伝達の面で双方が困難を抱えていることが明らかとなった。特に「引き取り訓練」や「感染症のお知らせ」などの文書は理解されづらく、例年うまくいかないこと、また、「延長保育」の利用率が母語話者と比べ極めて少ない原因が、「延長保育」に関する掲示物が難しく、内容が理解されづらい点にあることが明らかとなった。
- [注2] …… 「やさしい日本語」という用語には、佐藤（1996）、松田他（2000）などにおける使い方のほかに、それとは独立の文脈で用いられる用法がある。これについては、庵（2009）と庵・岩田・森（2011）を参照。
- [注3] …… 幼稚園のプリント（原文）に対する非母語話者の保護者の日常的な対応について聞き取りを行ったところ、以下のようなことが明らかとなった。①夫の方が日本語の読み書きを解していることが多いため、文書が読めない母親は読まずにそのまま夫に渡す場合が多い。②通常夫が読んで妻に母語で通訳するが、夫自身が理解できない場合は、幼稚園に電話をして内容を聞き、その上で妻に通訳している。③夫が理解できない場合、夫の職場にいる日本人に尋ねることもある。④同じ母語話者で日本語の上手な人が近くにいる場合は、その人に聞き、翻訳してもらおう。⑤辞書、翻訳ツールを使用する。⑥母親が直接幼稚園の先生に聞く場合もある。⑦同じ幼稚園の友達の母親に聞く。ただし、先生よりも友達の母親に聞く方が多かった。
- [注4] …… 本稿では「複合動詞」と「動作性のある表現」を分けて取り上げた。どちらも動作に関わるものだが、区別した理由は佐藤（2004）が「複合動詞」の問題を取り上げているからである。また、理解されづらい要因として文化差による日本の禁止事項についての無理解も考えられるが、文化差による問題に関しては、西尾（2012）で分析したものがあため、ここでは触れなかった。
- [注5] …… 2012年9月の調査では「イラスト版やさしい日本語」の調査も行った。

## 参考文献

- 庵功雄・岩田一成・筒井千絵・森篤嗣・松田真希子（2010）「やさしい日本語」を用いたユニバーサルコミュニケーション実現のための予備的考察』『一橋大学国際教育センター紀要』1, pp.31-46. 一橋大学
- 庵功雄・岩田一成・森篤嗣（2011）「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え—多文化共生と日本語教育文法の接点』『人文・自然研究』5, pp.115-139. 一橋大学教育研究開発センター
- 宇佐美洋（2012）「難解文書の書き換えプロセスに見られる「評価」への意識』『2012年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp.129-134.
- 佐藤和之（1996）「外国人のための災害時のことば』『月刊言語』25(2), pp.94-101. 大修

## 館書店

- 佐藤和之（2000）「災害時の外国人用日本語」マニュアルを考える—災害時情報と外国人居住者』『日本語学』19(2), pp.36-51. 明治書院
- 佐藤和之（2004）「災害時の言語表現を考える」『日本語学』23(8), pp.34-45. 明治書院
- 災害時の日本語研究グループ（1999）「災害時に使う外国人のための日本語案文」『文部省科学研究費（国際社会における日本語についての総合的研究）報告書』
- 西尾広美（2012）『幼稚園における「やさしい日本語」使用の有効性と課題点—現場対応のためのガイドライン作成を目指して』首都大学東京大学院修士論文
- 弘前大学人文学部社会言語学研究室（2010）「やさしい日本語」作成のためのガイドライン <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ejgaidorain.html>（2012年4月15日参照）
- 松田陽子・前田理香子・佐藤和之（2000）「災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論」『日本語科学』7, pp.145-159. 国立国語研究所
- ロング, ダニエル（1997）「緊急時報道における非母語話者の言語問題—応用社会言語学の試み」『日本研究』12, pp.57-95. 中央大学校日本研究所
- <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/newmanual/top.html>

## 参照Webサイト

- 辞書&レベル判定ツール「チュウ太の道具箱」  
<http://language.tiu.ac.jp/tools.html>（2012年5月17日参照）
- 弘前大学人文学部社会言語学研究室HP  
<http://uman.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/>（2012年4月15日参照）
- やさしい日本語支援システム「やんしす」  
<http://www.spcm.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS>（2012年5月17日参照）
- 「やさしい日本語」の作成ルール  
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ9tsukurikataujie.htm>（2013年5月27日参照）

